

利休と剣仲

りきゅう

けんちゅう

千利休と藪内剣仲——侘数寄の心

2017年

10月7日(土) — 12月17日(日)



前期 10月7日(土)・11月12日(日)
 後期 11月14日(火)・12月17日(日)
 ※作品保護のため、一部展示替えを行います
 休館日 月曜日
 ※但し10/9(月・祝)は開館、10/10(火)は休館
 開館時間 午前10時～午後5時(入館午後4時30分まで)
 観覧料 一般700(550)円、大高生450(350)円、
 中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金
 主催 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社
 〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1
 TEL 078-841-0962
<http://www.kosetsu-museum.or.jp>

利休と剣仲

千利休と藪内剣仲
侘数寄の心



①

利休と剣仲、
深い親交の証。
裏面には、
「天正九年
巳十月二日紹知へ
利休（花押）」



③



②



④



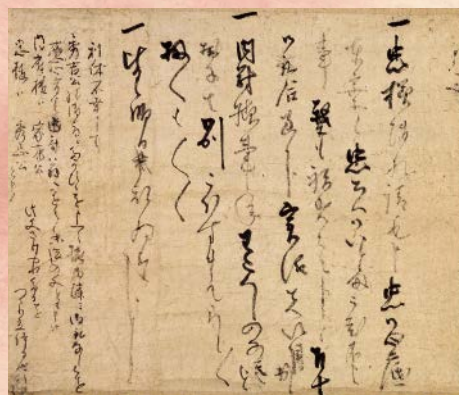
⑤



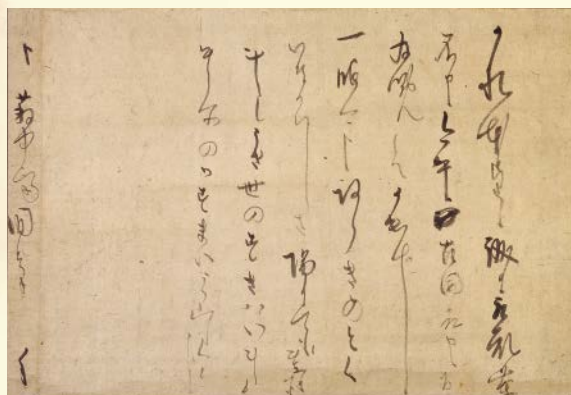
⑥

堺の町衆であつた千利休（1522 - 91）と藪内流初代藪内剣仲（1536 - 1627）は、ともに武野紹鷗門下で侘茶を学びました。剣仲は、紹鷗から「紹」の一字を頂き「紹智」と名乗り、大徳寺の春屋和尚に参禅して、文禄4年（1596）「剣仲」の号を授かります。そして利休の媒酌によつて古田織部の妹を妻とし、紹鷗亡き後、兄弟子である利休から相伝とともに茶室「雲脚」を、織部からは茶室「燕庵」と露地・表門等を賜りました。藪内流は京都西本願寺とゆかりがあり、その茶法は書院風の古格を今に伝えています。

本展では、茶室「雲脚」に贈られた瓢形額や、「燕庵井戸」と呼ばれる茶碗、『南方録』に紹鷗忌の茶会に使用されたとある「漢作唐物利休丸壺茶入」など、多彩な伝来を持つ作品とその背景にみえる彼らの深い交流を紹介します。



⑧



⑦

梅園会 講演会と茶会

「藪内家と千家の交流」

熊倉功夫氏 MIHO MUSEUM 館長

開催日 2017年10月31日(火) 講演:午後1時、茶会:午後3時から
定員 50名(応募多数の場合は抽選)
参加費 3,000円 ※「利休と剣仲」展の入場料を含みます。

【参加申込方法】9月22日(金)必着

往復はがきに住所・氏名(返信用にも)、電話番号を明記のうえ、下記宛先までお送りください。はがき1枚につき1名のみ申込みできます。申込み受付後、参加費事前入金の場合を案内にて連絡いたします。

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1
香雪美術館「梅園会」係

ギャラリートーク

会期中の毎週土曜日(ただし11/25は除く)午後2時から。
学芸員によるギャラリートークを行います。
※ギャラリートークの聴講は無料ですが、別途展覧会の鑑賞券が必要です。

【交通案内】

阪急「御影」駅南改札口より東南へ徒歩5分

JR「住吉」駅より北西へ徒歩15分

阪神「御影」駅より市バス19系統で「阪急御影」下車徒歩5分

香雪美術館

KOSETSU MUSEUM OF ART

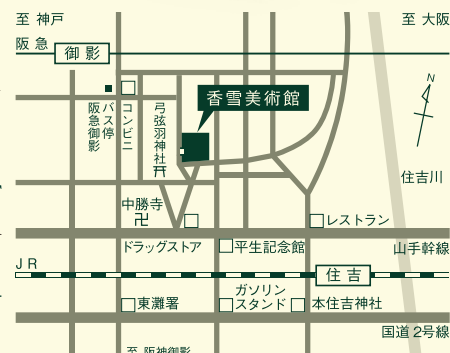
〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1

Tel 078-841-0652 Fax 078-841-1402

<http://www.kosetsu-museum.or.jp>

次回展「刃金之美 武具・甲冑名品展(仮)」

2018年3月1日(木)~4月8日(日)月曜休館



[表面] 織部 弾き香合、重要美術品 漢作唐物 利休丸壺茶入、千利休 龍花入 銘「桂川」、千利休 消息 藪内剣仲宛(部分)
[裏面] ①利休筆 瓢形額「雲脚」、②高麗 燕庵井戸茶碗、③織部 袂香合、④真中古 藤四郎肩衝茶入、⑤古天命金提釜、⑥千利休 一重切花入、⑦千利休 消息 剣仲宛「うらやましの文」、⑧千利休 消息 細川幽斎宛「末期の文」(①③④⑤⑦⑧藪内燕庵蔵)